
闇の帝王もどきな俺

カナリヤ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

闇の帝王もどきな俺

【Nコード】

N6117T

【作者名】

カナリヤ

【あらすじ】

所詮どんな力を持ってても、持ってた奴には成れなくて。

気持ち悪い……

(前書き)

ニコ動でヴォルデモートのAA作ったWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWWを
見てなぜか書きたくなったので書きました。

街に行ったらバケモノ扱いなう。

うん、悲しいかな。こんな見た目では人間と思われないよな。蛇人間と言われた方がしっくりくるもんな。

「我々正義の魔法使いが、貴様のようなバケモノを逃がす訳がなからう！」

なにあれ。自称正義の魔法使い？人を見た目だけで判断しやがって……

許さん！！

「エクスペリアームス」

しかし、武装解除しか使わない俺はへたれだ……
迷惑料として貴様等の杖は頂くがな！！

小悪党みたいだな、闇の帝王の体なのに……
なんかさつきから足を進めるたびに屈辱感が半端無い
体が逃げずに戦えて、言ってるみたいだな……勝てるだろうけど。
人を簡単に傷つけるなんて、できないんだよ。

だけどそんな思いなんて無駄だって言うように

「死ねえ！！！」

殺される。そう感じたら

「アバダ・ケダブラ」

咄嗟に口に出した呪文は、死の呪文で……

緑の閃光は吸い込まれるように、呪文を唱えていた奴の胸に命中した。

糸の切れたマリオネットのように、いきなり崩れ落ちる。

殺しちゃったよ……傷つけないとか考えていたくせに、あさり殺したよ。自分の手で。

だというのに。人としての大罪を犯したのに。込み上げてくる感情は……優越感

自分は崩れ落ちた奴とは違う。そんな優越感が心を満たし始める。気持ち悪い……

体が闇の帝王になっただけなのに、もう　　はもう居なくて、俺は闇の帝王に近い存在になってしまったようだ。

「俺様が大人しく去ってやろうというのに……貴様らが追いかけてくるから、つい殺してしまっただではないか……」

残っているのは心だけ、だったら心も闇の帝王になれば楽になれる。
　　が消えて残るはヴォルデモートのみ。

「全員死んでも、かまわんだろ？」

未知への恐怖が追いかけて来た奴らに、広がっているのが手に取るように解る。

開心術の一片か。基本的な能力か。どちらかは解らない。そんな事はどうでもいい……

ただ……

「なに、痛みは無い。楽に逝くだけだ」

こいつらには、俺がヴォルデモートになる肥やしになってもらう。

「アバダ・ケダブラ」

呪文の数だけ死体がころがることになった。

気持ち悪い……………

十数人殺したが、結局俺は俺で、闇の帝王たるヴォルデモートには成れないらしい。

ああ、楽になれると思ったけど。

やっぱり気持ち悪い……………

S i d e o u t

(後書き)

続きは書かないつもり

2作連載はたぶん無理だと思うし、突発的な衝動で書いたんで次を
考えてない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6117t/>

闇の帝王もどきな俺

2011年10月9日02時59分発行